VANQRAT

ねずみ無善

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＶＡＮＱＲＡＴ

【Ｎコード】
Ｎ２４６７Ｙ

【作者名】
ねずみ無善

【あらすじ】
「吸血鬼」それは、人の血を吸う「化け物」。その化け物はこう呼ばれる。
「ヴァンパイア」そしてその化け物は人の血をすうだけでなく、その血を吸われた人をも化け物とする。「クローンアンデット」・・・これが血を吸われた人間がなる醜い生き物だ。
そのクローンアンデットは殺人衝動に襲われる。さらに厄介なのがクローンアンデットは、人間の武器が効かないほどの防御力、手のつけようがないほどの攻撃力を兼ね備えている。

だが、そのクローンアンデットに唯一対抗できる生き物がいる。その名は「吸血人」そしてその吸血人は聖職者にこう呼ばれる・・「ドラキュラ」と・・・・・

最後の始まり（前書き）

どうも、はじめましてｎｅｚｕｍｉｍｕｚｅｎです
今回、初めての投稿だったので誤字脱字がたくさんあると思います
すみません・・・・以前から、ずっと自分の小説を書きたいなぁと
思っていました、よろしくお願いします
ＶＡＮＱＲＡＴ　はじまりはじまり～～

最後の始まり

「吸血鬼」それは、人の血を吸う「化け物」。その吸血鬼はこう呼ばれる。
「ヴァンパイア」そしてその化け物は人の血をすうだけでなく、その血を吸われた人をも化け物とする。「クローンアンデット」・・・・これが血を吸われた人間がなる醜い生き物だ。
そのクローンアンデットは殺人衝動に襲われる。さらに厄介なのがクローンアンデットは、人間の武器が効かないほどの防御力、手のつけようがないほどの攻撃力を兼ね備えている。
だが、そのクローンアンデットに唯一対抗できる生き物がいる。その名は「吸血人」そしてその吸血人は聖職者にこう呼ばれる・・「ドラキュラ」と・・・・・

・・・・２０１１年１０月７日午前０：００分・・・・
豪雨の中、一筋の稲光が、とある教会に舞い降りた。その稲光の中に一人の男が立ってた。
その男の顔は、よくは、見えないが身長２メートルもありそうな長身で、何よりも稲光の中からちらつかせて見える白髪が、目立った、一言で怪しいとしか言いようのない男だった。
男は、独り言をつぶやいた　「百回目・・・」
最後に男は、頬に一筋の涙を流し悔しそうに言った。「もう、あとが・・ない」

・・・・２０１１年１０月７日午後１４：１０分・・・・
「夜にあったって言う大雨は、やんだみたいだね」教会近くの公園に一人の男の子が通っている。（今のは、独り言）その男の子の言うように、豪雨はすっかりやみ、うそのように晴れていた。

男の子は、どうやら教会に行くようだ。　教会の門に白髪男がいた。
すると男の子は、白髪男の顔を見て、小首をかしげた。
「？、お兄ちゃん、前にどこかで会った？」
「！！・・・・・」
白髪男が、ハッとした
「ねぇ、答えてよぅ」
「・・・・・・・・・」
白髪男は、答えようとしない
男の子はため息をついた後
「おはようございます。新しく入った教会の方ですか？」
男の子は、丁寧に挨拶をした
「僕ね、おかぁさんのお墓参りに来たの」
「・・・・・・・・・・・・」
それでも白髪男は黙ったままだ
男の子はまたため息をついて教会へ入っていった

・・・・２０１１年１０月８日　午後１１時１２分・・・・
都内の会社に眼鏡をかけた男がいた
その男は写真を眺めた、その写真には昼にいた男の子とその男がうつっていた
そしてもう一人の女性が移っていた
男は、涙を流した

・・・・２０１１年１０月９日　午前８時２６分・・・・
『次のニュースです』
どうやら朝のニュースのようだ
『元軍人の中田吉野さんが、本日、血まみれの状態で都内の公園で倒れていました。吉野さんは、［恐ろしい、ゾンビを見た、殺され

る」といって都内の病院に搬送されましたが、まもなく死亡しました。続いてのニュースです・・』

・・・・２０１１年１０月９日　午後１時４６分・・・・

教会への歩き道

「ねぇパパ、教会に新しいお兄さんが来たんだよ、まぁ、前にいたお兄ちゃんは、今、どこかに行っちゃったみたいだから、結局また一人だけどね」

昨日の子供だ

「そうなのか・・・」

どうやら昨日の夜のめがねをかけた男はこの子の父親のようだ

今日もまた教会の門の前にその白髪男がいた

男の子は、はっとした

「あっ、そういえば昨日お名前を言い忘れちゃった」

男の子は、白髪男の前に駆け寄り

「おはようございます！」と元気に言った。

「昨日は、言いそびれちゃったけど・・僕の名前は、由羽（ゆう）　葵（あおい）　由羽（ゆう）」

最後の始まり（後書き）

どうでしたか、楽しんでいただけたらとても光栄です。最初は、世界観がつかめないかもしれませんが、だんだん慣れてくると思います
不定期投稿なので続編は、もっと時間を・・・・
すみません

ｂｙ　ｎｅｚｕｍｉｍｕｚｅｎ

小さな真実（前書き）

どうもっ
ねずみ無善です
改名いたしましたっ。今回は、ＶＡＮＱＲＡＴ第２話。ぜひ楽しんでみていってください
まぁ投稿した１１月２０日現時点では、誰も見ていないですけどねっ！
では、ＶＡＮＱＲＡＴ第２話「小さな真実」始まり始まり～

小さな真実

「僕の名前は、由羽　葵　由羽」
その瞬間、ひときわ強い風が吹いた
「お兄ちゃんのお名ま・・」
お兄ちゃんのお名前はと聞こうとしたが父親に口を押さえられてしまったようだ
「こら！知らない人に勝手に自分の名前を言うんじゃない！」
なぜだか相当怒っている
「何で？」
「ダメと言ったらダメだ！」
由羽はあきらめてお母さんのお墓に父と二人で向かった。
そのとき父親は、最後まで白髪男に攻撃的で、にらんだりしていた
そのとき白髪男は、少し残念そうな顔をしそのままずっと教会の門に立っていた

・・・・２０１１年１０月１０日　午前８時３分・・・・
静まり返った商店街の電気屋の前に白髪男が立っていた
『今日のニュースです』
また、昨日と同じニュース番組のようだ
『本日未明昨夜死亡した中田吉野さんと同じように都内の公園で桜美智子さんが血まみれの状態で倒れていました。警察は、これを通り魔の犯行と見ており住民に警戒を取るよう・・・』
そしてまた、昨日と同じニュースのようだ
これを見た白髪男は、独り言をつぶやいた
「ちがうよ・・これは、クローンアンデットの仕業だよ、そしてクローンアンデットは、
由羽の父親だよ・・・・」
そう、誰も聞こえない声でつぶやいた

・・・・２０１１年１０月１０日　午後２時３４分・・・・
由羽が、何かを楽しみそうに教会への道を駆けていた
「パパには、昨日ダメだって言われたけどやっぱりあのお兄さんと仲良くなりたい！」
と息を切らせながら教会についた。やはり教会の門には白髪男が立っている
「お兄ちゃん、お名前は？」
「・・・・・・」
そんな由羽の気も知らず男は黙ったままだ
由羽はこの、名前をひたすら聞く作業を６日間もずっと続けたのだった・・・
そしてそれと同じように毎日のように『通り魔』のニュースが報道されていたのだった

・・・・２０１１年１０月１６日午後３時１４分・・・・
「ケホッケホッ」
「どうした、由羽風邪でもひいたか？」
由羽の父親が教会への通り道に由の風邪に気づき由を家に帰らせた
その帰り道、由羽の父親は、由羽にこんなことを聞いた
「それより、あの怪しい白髪の男は、まだ教会の門にいるのか？」
「うん」
「そうか」
そう言って由羽を家に残し教会に行った

・・・・２０１１年１０月１６日午後４時２６分・・・・
教会には、いつのものように白髪男が立っていた
そしてさらにそこに由羽の父親も
「もう正体を出してください」
最初に切り出したのは白髪男のほうだった

「・・・・」
父親は静かに白髪男をにらむ
「そうですか・・・そうですよね。」
最初はやさしそうな口調だったが
「俺はおめぇたちの天敵だもんなぁ、にしても残念だ
また由羽を悲しませることになっちまう。」
と、いきなり恐ろしい口調になった
「まぁどうしたって変えられねぇ運命ってもんもあんだ」
「キリッ」
さぁ、雑談もなんださっさとけりを付けようじゃないか
なぁ　パパさん?」
父親は、次第に今までのにらみと一段も二段も違う顔で話を聞くよ
うになった
だが一瞬白髪男は、きっと助けて見せますと空気すら動かない口調
で言いその後白髪男は、ニィっと笑った。その口には、人とは思え
ないほどの、鋭い牙が光っていた
そしてその牙で父親に襲い掛かった

小さな真実（後書き）

えぇ
タイトルと内容のつながりはこれからじょじょに分かってくると思いますので楽しみにしてください
今回も誤字脱字たくさんあったと思います。
それでも読んでくださりありがとうございます
何度も言うように不定期投稿なので3話はいつ出来るか、わかりません
それでもぜひ3話を見てください！
さようならっ！

ねずみ無善

クローンアンデットとドラキュラ（前書き）

３話は、とうとう題名のとうりクローンアンデットとドラキュラの
秘密について紹介します
どうぞ楽しんでみていってください

クローンアンデットとドラキュラ

・・・・２０１１年１０月１６日午後４時３４分・・・・
教会の前に二人の男が立っていた
一人はいつのも白髪男もう一人は、一般的なサラリーマン
すると白髪男がニィっと笑った
その笑みの中に鋭い牙が光っていた

と思うと白髪男はサラリーマンに襲い掛かった

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
今のところ分かるクローンアンデットの情報は
クローンアンデットは殺人衝動に襲われ
クローンアンデットは、人間の武器が効かないほどの防御力、手のつけようがないほどの攻撃力を兼ね備えている
と言うことだ

そして
♪～新着情報
今新しく分かったクローンアンデットの情報は
クローンアンデットには
ノーマル
セカンド
サード
が、あることだ
ノーマルは、人間の皮をかぶりクローンアンデットとしての力を最

小限に抑えた状態
セカンドは、ノーマルの状態から一部を開放した状態。このとき開放した部分の皮は殺した者の皮で補う
サードは、クローンアンデットの最終形体。この時点で体のセーブは全て解除され人間としての皮は破け散り真の姿を見せる
ここまでが、今クローンアンデットの分かる情報だ
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・
そして今のところ分かるドラキュラの情報を説明しよう
ドラキュラはクローンアンデットに唯一対抗できる生き物
これだけだ
だが、
♪〜新着情報
新たに分かった情報がある
ドラキュラはクローンアンデットの天敵ではあるが別に殺すわけでは無い
逆にクローンアンデットを救うのだ
しかしドラキュラにも救える範囲がある
ドラキュラの救える範囲は
クローンアンデットがまだノーマルのときだけだ
いや、完全に救えるのは、
ノーマルのときだけ、
セカンドでも救える
サードでは救えない
ドラキュラはまだ、血を吸われた人間の皮がついている状態なら救える
セカンドでも開放した部分は救えないがそのほかの部分は救える
サードは救えない
まぁそれでも救える範囲は、広い

だが、救うにも、条件がある
それは、ドラキュラが、血をクローンアンデットの血を吸わなければいけないということ
聞く側としては簡単なことかもしれないが
これは意外に難しいのである
クローンアンデットの血をすえる範囲は、首筋のみ
更にクローンアンデットは、自分の首筋を守る本能が付いている
だからクローンアンデットを救うのはとても難しいのだ
そしてここまでが今分かるドラキュラの情報だ

・・・

話は戻る
白髪男がサラリーマンに襲い掛かった
サラリーマンは、当然由羽の父親だ
白髪男は、由羽の父親に襲い掛かっているのだ
いや、首筋を狙って
だが、これを由羽の父親はすばやくかわす
そしてかわした拍子には由羽の父親はいわいる裏拳を繰り出す
だがこれを白髪男はかわしまた首筋を狙って攻撃する
これをまたかわし今度はけりを繰り出す由羽の父親
このような作業
否、殺し合いがしばらく続いた
とうとう仕方なく白髪男も攻撃に入る
隙を見て救おうという寸法だ
だが、白髪男の攻撃が、強すぎたせいか
由羽の父親がとうとう

セカンドにいたった

これを見て白髪男は、小さな声で、畜生と言った

クローンアンデットとドラキュラ（後書き）

由羽の父親がとうとうセカンドにいたってしまいました！
これからどうなるのでしょう！（自分で言うことじゃないでしょ）
次話を楽しみにしてください！

後、６番目の魔王も

では、

ｂｙ　ねずみ無善

準備運動　終わり♪（前書き）

こんにちわ・こんばんわ・おはようございます（どれでも可）
ねずみ無善です！
えぇ
はじめに言っておきます、サブタイトルに意味はほとんどありません
別にこのタイトルをみて
どういう話かを想像しなくてもいいです！（想像を超えられない話
なので・・）
ではっ
ＶＡＮＱＲＡＴ第４話
お楽しみください！

準備運動　終わり♪

・・・・２０１１年１０月１６日午後５時１６分・・・・

畜生・・・・

そう言った男、白髪男の前には

左足、左腕、右半分の顔が爬虫類のような皮膚をした、眼鏡をかけた男が立っていた

いや、

戦っていた

「ひっひっひっひっひ」

突然、

異常な体をした男が笑い出した。

そして、戦いの最中喋りだした

「なぁ、ドラキュラさんよぅ

あんたも、ヴァンパイアになってみたらどうだ？

きっと楽しいぜぇ」

すると白髪男も体が異常な状態をした男の首筋を噛もうとしている最中喋った

「はっ、そんな気は毛頭ない。

そう言うお前こそ俺に首筋を噛ませろ！

今なら、右足、右腕、左半分の顔は助かる」

だが、

異常な体をした男はこう返す

「右足、右腕、左半分の顔しか助かんねぇ位ならこの方がましだ！

それに由羽も、俺のおかげで天国のママに会えるしなぁ！

ひっしっしっしっしっし！」

「ふざっけんな！」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
当然この異常な体をした男は、由羽の父親だ
由羽の父親
最初、白髪男は由羽の父親を救おうと戦ったいた
だが、
今は由羽の父親を殺そうと
いや、
異常な体をした男を殺そうとしたいる
だから、今、二人は、
準備運動をやめ、本気でお互いを殺そうとしている
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ここからは、無言の戦いが始まる
白髪男はまず
手の鋭い爪で異常な体をした男に切りかかる
だが、異常な体をした男も、左腕の爪で応戦する
そのあと白髪男は、異常な体をした男に向かって回し蹴りを喰らわ
せる
そして、異常な体をした男が回し蹴りを喰らい転んだ隙に鋭い爪で
異常な体をした男の首に切りかかった
そして、
異常な体をした男の首は、
飛んだ・・・・・・・・

・・・・・だが、
体が異常な状態をした男は、首なしの状態から、むくりと立ち上が
り立ち上がったと思うとその切られた首の断面から

新たな首が、
生えてきた

そして異常な体をした男は、戦況が不利と感じたのか
サードにいたったのだった

準備運動　終わり♪（後書き）

由羽の父親がとうとうサードにいたってしまいました！
これからどうなるのでしょう！（前回と同じジャン！）
次話を楽しみにしてください！

後、６番目の魔王も

では、

ｂｙ　ねずみ無善
（もう、そんまんまジャン！）

クローンアンデット（前書き）

今回は、題名の通りクローンアンデットの説明パート2をしたいと思います
あと、とうとうサードにいたってしまった由羽の父親はどうなるのでしょう！
まぁ、サードにいたった時点で、助かんないんですけどね

クローンアンデット

・・・・２０１１年１０月１６日午後５時４６分・・・・
教会の前に首なしの人間が立っていた、
いや、
左足、左腕が、爬虫類のような皮膚をしている首なしの人間が立っ
ていた
そして、
その切れた首の断面から、新たな首が、生えてきた、
と
そう思った瞬間
その人間の左足、左腕以外の人間の皮膚が、
弾け飛んだ

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・

♪～新着情報
クローンアンデットは、ヴァンパイアに血を吸われる時に人間の血
を吸われる
そして、
人間の血の変わりに別の
動物をベースにしたＤＮＡを入れられる
そしてそのＤＮＡは、ベースの動物の能力を特化させた状態で入れ
られる
つまり、
クローンアンデットは、ベースの動物を進化させた生物だ
更に
クローンアンデットには、

１つ
１つ、動物では、いや、生物には絶対なしえない超能力が、与えられる
その超能力は、
その動物に適した能力が与えられる
そして、その超能力と、進化率の比率の全ての合計は
１０だ
進化率の比率が高いほど、スピード、攻撃能力に特化している
超能力の比率が高いほど相手を、じわじわと、傷付けることは、できるが、攻撃力、スピードに関しては、微妙だ
しかし超能力の比率が高いことは、立っているだけで相手を殺せるのだ
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

とある教会から爆発音が聞こえた
その爆発音のなかには一匹の
巨大な
トカゲがいた
その、トカゲは、体長３メートル近くある
そして、そのトカゲが、まがまがしい目で見ているのは、
鋭い牙をむき出しにした白髪男
いや、
ドラキュラだった
ドラキュラは巨大なトカゲに鋭いつめで襲い掛かる
だが、トカゲは、それをかわす様子も無くその攻撃をあっさりと食らった
当然攻撃は命中し、左手を切った、
そして、切れた左手の断面から、新たな腕が、生えてきて、
攻撃の後の白髪男の隙を付き

その新たな左腕のつめで、切りかかった

ここまでで、お分かりだろう
このトカゲは、もともとのトカゲの再生能力を特化させ本来なら再生しないはずの骨まで再生させる能力、
さらに
回復を早くさせるという能力を兼ね備えている
この比率は、７対３だ

だから
白髪男の喰らった攻撃は人間千人分を殺せる力だったのだ
そして、白髪男は、人間で千回死んだということだったのだ
だが、男は立ち上がった
そして、
片腕の血を払い
再度相手に襲い掛かった

クローンアンデット（後書き）

今回のクローンアンデット、由羽の父親はトカゲでしたが
皆様の出してほしい動物は、在りますか？
あったら、ぜひ感想でも何でもいいので言ってみてください！
では、
次話をお楽しみに♪

ｂｙねずみ無善

トカゲの涙（前書き）

この話でとりあえず、由羽の父親偏は、完結します
どうか
シリアスな、感じで見てください

トカゲの涙

・・・・２０１１年１０月１６日午後６時２４分・・・・
教会の前で
血まみれの状態の白髪男は片腕の血を払い
目の前のトカゲに襲い掛かった
白髪男は目の前のトカゲに連続で、切りかかった
しかし
トカゲは切られた部分を回復し
隙を付き白髪男に切返す
白髪男は、それをもろにくらい大量の血を地面にたらした
しかし白髪男は、この行動を永遠と繰り返す
とうとうトカゲは、飽きたのか、喋りだした、
「おいっ
いい加減何か別のことをしろよ
そして、俺を楽しませてくれよ！」
しかし白髪男は、それを聞こうともせず
同じ行動を永遠と繰り返す
攻撃して、攻撃され返され、血を噴出す
とうとう、相手のトカゲにまで返り血が飛び、相手まで、血まみれの状態になっている
ここまでを見ると
白髪男に勝ち目は無いだろう

だが、
白髪男が、ニィっと笑った
その瞬間

トカゲの再生能力が、急速に
遅くなった
「！っ　なんで！」
トカゲは、急に焦りだした

「それは、お前が一番知っているだろう。
お前には、骨髄が無い
まぁ、骨髄なんて言う臓器は只の弱点にしかなんねぇもんなぁ」
突然、白髪男は、喋りだす
そして話し続ける

「だが、
骨髄がなけりゃぁ
血は、生まれない
その血がなくなってしまえば
お前は、干し柿みてぇになっちまうもんなぁ！」
それを聞いたトカゲは、なぜ知っている！
「だが！どうやって俺の血を抜いた！
お前の攻撃はほとんど血を噴出してしまうものは無かったのに！」
トカゲは動揺を隠し切れない
何もかもが、分からないのだ
どうして骨髄が無いことを知っているのか
どうやって血を抜いたのか
この二つが分からないのだ

しかし、どう血を抜いたのかは分かった
それは、白髪男の一言で
「お前、自分自身の体、よく見てみろ」
トカゲは言われた通りに自分自身の体を見た

するとそこには、
１０センチほどの針が、数本刺さっていて、その針から、パイプのように
トカゲの血が、流れていたのだ

つまり、
白髪男は片腕の血を払った時点で針は刺さっていて、
白髪男は、流れる血がばれないようにわざと、相手の攻撃を受け自分の血と相手の血を
ゴッチャ混ぜにしたのだ
だから、
『相手まで、血まみれの状態になっている』といったこれは、全て相手の血、つまり、トカゲ自身の血だったのだ
この場に流れている血のほとんどが、トカゲの血だったのだ

これを覚ったトカゲは、別の質問を焦りながらも問いただした
「お前は、どこにこの針を隠し持っていた！
なぜ俺はこの針が刺さったことに気づかなかったのだ！
こんな針が刺さったら、さすがに痛むはずなのに！
なぜだ！」

「隠し持ってなんかねぇよ
これは、自分のつめを変化させてはなった
そして、痛みを感じなかったのは、この針が特殊な能力をしているからだよ
お前は、蚊の針の性質について知っているか？
蚊の針ってのは、特殊な形状をして刺さるときに痛みを軽減する
そして更に蚊の針には、皮膚組織を破壊する成分が付いていてなぁ
それをまねして、蚊の針と同じ形状のつめで作り更に皮膚組織を破壊する成分を独自に体内で作ったって事だよ」

だが、これを聞いてトカゲには、新たな疑問が浮上した
それは、ドラキュラにこのような能力が無いということだ
それなのに、目の前にいる白髪男は、この、わけの分からない能力をつかっている
次にトカゲは、この質問を問う
「ドラキュラにこんな能力は、備わっていない！
なのにお前は、何でこんな能力を使っている　！」
と、
今にも死んでしまいそうな状態でトカゲは、聞いた

それは、親父からの呪いだよ
そんな風に聞こえた
だが、きちんと聞こえなかった
それを誤魔化すように

「まぁどうせお前はもうすぐ死ぬんだ
最後に言い残すことは、あるか？」
と、
そう聞いた

するとトカゲは、
白髪男に近寄り
自らの首筋をかませた
途端にトカゲだったからだは、
もとの由羽の父親の体に戻った
そのとき
「パパ～
淋しいよ～」

と、
由羽の声がした、
白髪男は、さっと身を隠した
すると、由羽が、倒れている自分の父親に気づき
自分の父親に駆け寄った
「？
パパ
どうしたの？」
由羽は、今にも、あふれ出そうな涙をこらえていった
由羽も、覚ったのだ
自分の父親が、間のなく死んでしまうことを
「パパ
どうしたの？
ねぇ
一人に・・しな・・いで・・
ねぇ、お願いだから、
僕を一人にしないで・・」
すると、
由羽の父親は、やっとの思いで、手を由羽の頭にのせこう言った
「由羽お前は、一人じゃない
パパが死んだら、この教会に住みなさい
この教会には、由羽をとても大切にしている人が、待っているから
・・・・・・・・・・
本当にすまない
由羽をおいていってしまって
本当にすまない
結局、パパは、大切な人を誰一人守れなかった
本当にすまない」
そして由羽の父親は、最後にこう残し死んでいった
「由羽

君だけは、
絶対に生きて・く・・れ・・・・」
そういい残した由羽の父親の頬には、一筋の涙が、光っていた

・・・・２０１１年１０月１６日午後７時１２分・・・・

トカゲの涙（後書き）

自分では、結構感動できる話だと思います
できれば、
皆様のご感想も、見てみたいのですが、・・・
今のとこ、感想は、知り合いの1件しかないのです
どうか、
誰でもいいので、感想を書いて！

ｂｙねずみ無善

白髪男（前書き）

お久しぶりです！
僕は、今、中学生なのでテストが終了し、
いろいろ、気が抜けて7話をなかなか描けずにいました
本当にすみません
では、
7話をお楽しみください

白髪男

・・・・１７７８年　５月１８日　午後７時２４分　～イギリス～
・・・・

雷雨の中一人の男が逃げていた
その男は、白髪だ
だが、その男は、２０１１年にいた白髪男ではない
その２０１１年の白髪男は、
１７７８年の白髪男の手の中にいた
まだ、赤ん坊の状態でいた
つまり
１７７８年の白髪男は、２０１１年の白髪男の父親ということだ
その１７７８年の白髪男は、逃げていた
何から逃げているのかは、今は、分からない
当然どうしてこうなっているのかも、分からない

と、
ふとした瞬間だった
１７７８年の白髪男の手の中にいた白髪の赤ん坊が、
血まみれになった
それは、なぜだか分からない
今分かることは、
白髪の赤ん坊は、今にも死んでしまいそうだということのみだ
「お前だけは、生きてくれ・・・」
と、
１７７８年の白髪男が言った
由羽の父親と同じように

そして、
1778年の白髪男が、
今にも死んでしまいそうな状態の白髪の赤ん坊に
噛み付いたのだった

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・

とまぁ
思わせぶりなことを言いました
では、
本編へ、移ります
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・2011年10月17日午前7時12分・・・・
由羽の父親の死亡から、ちょうど半日
教会を見てみると教会は
教会本体と、教会の中のお墓だけが無事で、それ以外は、瓦礫の山
だった
そして、その中、
白髪男が、由羽を胸に抱いて、由羽の悲しみを抑えようとしていた
「すまない、
由羽
お前の父親を守れなくって
助けられなくて
本当にすまん・・・・

初めて会った時のの質問に、
今、答える
私の名前は、

ウピル・ハジャン
もう、
由羽
お前を悲しませたりはしない・・・・」

・・・・２０１１年１０月１７日午後３時１９分・・・・
教会への通り道で、陽気な声が聞こえてきた
「さぁて、久しぶりの我が、教会
どうなっているかなぁ」
その陽気そうにしゃべっているのは、右目に眼帯をつけた
さわやかな男だった、
そして、さわやかな独り言は、目の前のボロボロになった教会を見て
悲鳴に変わった
「ぎゃぁぁぁぁぁ！
何で！
何でこんな有様になってんの！
私の教会がぁぁぁぁぁぁ！」

白髪男（後書き）

何度も何度も、言っていますが
不定期投稿なので次話がいつで知るかわかりません
本当に本当にすみません
これからも、ぜひ
読者様
ＶＡＮＱＲＡＴをよろしくお願いします
あと、６番目の魔王も
では、
又、今度

ｂｙねずみ無善

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2467y/

VANQRAT

2011年12月9日01時07分発行